

看護体験実習	1 年・後期	1 単位	教授 赤石 三佐代 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33110601

1. 授業のねらい・概要

患者の療養生活および療養環境を知り、入院がもたらす患者の生活行動の変化について考える。また病棟で展開されている看護活動の実際を学び、看護師の行動やケアの意味について考え、さらに看護の意義・役割について考察する。

2. 到達目標

1. 病院の中の看護の役割を理解する。
2. 看護実践の見学を通して看護師の役割を理解する。
3. 患者と関わり療養生活を理解する。
4. 実習で学んだことを振り返り自己の課題を明らかにする。
5. 看護学生として責任ある行動をとる。

3. 授業の進め方

実習施設ごとに少人数グループごとに実習を行なう。また、毎日カンファレンスを行ない、学びを共有し深めていくグループ学習を実施する。

4. 授業計画

1. 実習期間：1 週間
2. 実習場所：病院
3. 実習内容：実習要項参照

5. 成績評価の方法・基準

実習内容（実習態度、実習内容および実習記録、レポート）80%、筆記試験 20%を総合的に評価する。（実習要項を必ず参照すること）

6. テキスト・参考文献

テキスト：高橋清美編著（2014）：看護コミュニケーション 基礎からのステップ へるす出版
これまで基礎看護学で使用した教科書・資料を積極的に活用すること。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

既習の知識・技術に関しては実習前に十分に自己学習・演習を行い、自己学習はノートにまとめる。
看護技術に関しては、指定した技術を 2 回以上自己演習することを病院実習参加の条件とする。
これらは延べ時間にすると 1 週間は必要なので計画的に学習すること。

8. 受講上の留意事項

本実習に関連したスケジュールには全て出席することを基本とする。
本実習の詳細については実習要項に記載されているので、熟読して実習に臨むこと。
常に相手の立場を考え、人間尊重、人権擁護、秘密の保持、安全への配慮等倫理面の配慮を十分に行い実習すること。実習共通要項に従った身だしなみ・準備・態度を実習参加の条件とする。

9. 課題に対するフィードバックの方法

実習開始前の学内オリエンテーション時に自己学習記録を提出する。担当教員からの点検を受け必要なら追加修正する。技術の練習を行い担当教員からの指導を受け実習で実施できるようにする。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連（必修科目・選択科目）

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。